

平成 2 1 年度柏原市立歴史資料館等運営協議会

会 議 録

日 時 平成 2 1 年 5 月 2 6 日 (火)

午後 3 時～ 4 時 4 5 分

場 所 柏原市立歴史資料館研修室

会議出席者

委員

塚口義信（会長）、木下百合子、綿貫友子、明石道夫、鈴木 博、
今西美和子、蓑原 正

事務局

三浦 誠教育長、前 芳治教育部長、駒田修三教育部次長兼社
会教育課長、佐藤祥司課長補佐、北野 重主幹兼文化財係長、
酒谷健藏歴史資料館館長、安村俊史歴史資料館学芸員

欠席委員

和田晴吾、野口雅昭、渡辺宏治

記録：安村俊史

1. 開会

酒谷館長：只今より、平成21年度柏原市立歴史資料館等運営協議会を開催いたします。本日は、委員のみなさまにおかれましては、公私ご多忙のなか、ご出席いただきましてありがとうございます。私は当館館長の酒谷でございます。会長に議事進行をお願いするまでの間、私が進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。それではまず始めに、三浦教育長からご挨拶をお願いします。

2. 教育長挨拶

三浦教育長：委員のみなさまにおかれましては、たいへんお忙しいなか、歴史資料館等運営協議会にご出席いただきありがとうございます。当歴史資料館は年間2万人を越える入館者があります。小学生が中心で、中学・高校生の入館者が少ない、あるいは団塊の世代の方々の入館者増のためにどうすればいいか、昨年度の会議でもご意見をいただいたところでありますが、その辺も含めまして歴史資料館の運営につきまして、どうぞ忌憚のないご意見、ご助言を賜りますようよろしくお願いいたします。

3. 委員紹介

4. 事務局紹介

5. 議事

(1) 平成20年度事業報告

塚口会長：それでは、次第に従いまして議事に入りたいと思います。まず、平成20年度事業報告につきまして、歴史資料館関係を歴史資料館学芸員の安村さんお願いします。

平成20年度事業報告・歴史資料館関係 安村
報告内容については、資料P1～17 参照

塚口会長：それでは、引き続きまして横穴管理運営関係につきまして、文化財係の北野さんお願いします。

平成20年度事業報告・横穴管理運営関係 北野
報告内容については、資料P18 参照

塚口会長：ただいまのお二人からの平成20年度事業報告につきまして、何かご質問・ご意見はございませんでしょうか。木下委員いかがでしょうか。

木下委員：非常に着実な取り組みをされていると思います。「裴世清の見た風景」の企画展

がたいへん好評だったとお聞きしましたが、展示を見るときに、ストーリー、物語のある展示が大切なのではないかと思います。その辺を工夫されて展示された成果だと思います。

塚口会長：鳥坂寺や河内大橋の伽藍などを CG や絵画で復元されたということですが、ご本人も歴史クラブに参加されているということですので、蓑原委員にその辺についてお聞きしたいのですが。

蓑原委員：みなさん想像力を交えながら、たとえば河内大橋を渡る見返り美人を絵画にしようということになると、当時の衣裳はどんなものだったのか、ということからみんなで勉強しながら取り組んできました。出てきたもので展示するということではなく、現代人の感覚で展示すると、少しは暖かい展示ができるのではないかと考えています。それから、日刊紙などのパブリシティを資料として付けていただけると、活動の内容がよくわかっていいのではないのでしょうか。市外からの来館者が多いということは、その辺の効果はかなりあるということだと思います。

塚口会長：体験教室にご自身も参加されたということですが、今西委員、どうでしょう。

今西委員：私の子供が3年生だったこともあり、昨年度の体験教室に参加させていただきました。歴史とはものづくりが原点ではないかと思っています。そのことを小さいうちに体験させるということが大事だと思います。体験教室では、楽しく参加させていただきました。子供たちにとって、知識だけでなく、実際にやって見るということが必要だと思います。親子のつながりを深めることもできたと思います。そして、それを周囲の方々にもお伝えすることが私の役目だとも思っておりますので、少しはみなさんとの橋渡しができたかなと思っております。

綿貫委員：少ないスタッフで、これだけのことをされているというのは、本当にすごいと思います。展示を見せていただくたびに、いろいろと発見があって、おもしろいなと思います。また、展示する側と見る側の橋渡しをする役目を歴史クラブの方々が果たしているのではないかと思います。展示では、わかりやすいものばかりではないし、解明できないことも多いわけですが、そのときにたとえば道具だったらどのように使うのか、建物だったら礎石の位置だけでなく建物まで復元してもらおうとよくわかります。親しみをもって見ていただくために、市民歴史クラブの方々が果たす役割は大きいと思います。私は授業で博物館・資料館展示見学レポートを学生に課していますが、昨年は柏原市立歴史資料館を見学した人が5人いました。その前は3人くらいなので、少しずつ増えているようです。レポートを課さなければ来ないだろうと思いますので、地元に目を向けるように、少しでも学生に当館のことを知らせていきたいと思っています。

鈴木委員：私は小学校なので、3年生で昔の道具、4年生で大和川の付け替えということで、歴史資料館をいつも利用させていただいております。それでお願いがあるのですが、昨年国分寺の金堂の調査を実施されていました。私の学校（国分東小学校）のすぐ近くなので、非常に興味をもっておりました。子供たちにとっては、歴史に親しむすごくい

い機会だったと思います。それで、あそこから大和川や国分のほうをみると、どのような風景だったのかということ CG などでもわかりやすく見せていただけると、子供たちもとても興味をもつのではないかと思います。ぜひこれからも国分寺の調査を続けていただいて、わたしたちにも情報をいただければ、ありがたいと思っています。

明石委員：毎回のことですけれども、非常に少ない人数でこれだけの事業を年間されていることに驚きます。柏原市には三つの高校があるのですけれども、今日の資料の中で、高校名がでてきたのは八尾翠翔高校への資料貸し出し1件だけですので、これだけの教材がここにありながら、われわれ教員が活用できてないのはまずいなとつくづく思っております。少しでも高校生、および教員がこの館を利用できるようにしていかなければならないなと思いました。

塚口会長：私がこの資料館を評価させていただくと、これは毎回言っていることですが、非常に少ないスタッフで、これだけの事業を行っていることに驚きます。それから、入館者が非常に多い。ここは、交通の便がよく、隣接して史跡高井田横穴公園があるという立地の良さというのがあるのですが、それにしても、これだけの入館者を集めておられることにいつも感心しております。ひとつ要望ですが、秋・冬のリーフレットには丁寧にふりがなを振っておられますが、 Gondola やほかのリーフレットにも地名など難しい漢字にはふりがなを振っていただくというのは、無理でしょうか。

安村：いいえ、無理なことはありません。秋・冬のリーフレットは小学生をかなり意識して作っておりますが、そのほかについては、そこまで十分に意識できていませんので、今後気をつけたいと思います。

塚口会長：地名などはルビをつけていただきたいと思います。雁多尾畑（かりんどおばた）などは大阪の難読地名ですからね。ほかに何かございませんでしょうか。無いようでしたら、続いて平成 21 年度事業計画について、まず歴史資料館関係を安村さんお願いします。

（3）平成 21 年度事業計画

平成 21 年度事業計画・歴史資料館関係 安村

報告内容については、資料 P 19～21 参照

塚口会長：続きまして横穴管理運営関係について北野さんお願いします。

平成 21 年度事業計画・横穴管理運営関係 北野

報告内容については、資料 P 22 参照

塚口会長：ご報告いただきました平成 21 年度事業計画について、何かご質問ございませんでしょうか。

養原委員：先ほども国分寺の件で地元の小学生との話がありましたが、夏の展示で扱われる松岳山古墳は市内最大の前方後円墳であります。また、歴史クラブが取り組んでおります田辺廃寺の復元も関係するのですが、田辺史氏一族は、知識（集団）としてもテクノロジー（技術集団）としても相当なものを持っている氏族だったと思います。鉄器生産や大宝律令の編さんなど、柏原市にとってすごい氏族がここにいたということを、国分の方や国分小学校の子供たちにぜひ知ってもらいたいと思います。教育委員会から、資料館の情報を学校に流してもらえたらありがたいと思います。

三浦教育長：昨年は国分寺の調査の際に国分東小学校からも見学に来ていただきました。ただ、現地を見ただけではなかなかイメージできないので、最近よく使われるジオラマなどで河内六寺や国分寺の伽藍配置などが復元できると、わかりやすいだろうなと思います。ボランティアなどの協力もいただいて、できればいいなと思っています。学校への案内の件については、教育委員会としてもぜひ伝えたいと思います。

木下委員：子供たちは、実際に触ってみる、体験してみる、ストーリー性などの要素がないと、今の自分たちにとってどうなのかというのがなかなか結び付かない。むずかしいことではありますけれども、そのへんをできるだけ工夫していただければ、ありがたいなと思います。

塚口会長：平成 21 年度は大和川と前期古墳が主なテーマでございます。これは、柏原市立歴史資料館にとって、もっとも相応しい、もっともやりたいテーマではないかと思います。とくに前期古墳の時代というのは、歴史ファンの間では非常に関心のある時代ですので、これはPR次第では、例年を大幅に上回るような入館者が得られるのではないかと思います。それから、平成 21 年度事業に関連して、何か柏原市の記念事業を行えるような年ということはないのでしょうか。

三浦教育長：記念事業ですか。昨年市制 50 周年が終わりまして、大和川 300 周年も終わっていますので、何か歴史的なことでもありますかね。

養原委員：太平寺地区のぶどう農家やワイン工場などの古い町並みを大阪ミュージアム構想に申請し、そこに智識寺などの歴史的な展開を加えて整備していこうという構想があります。これを何かのきっかけにすることはできると思います。

塚口会長：柏原のワイン関係のものにつきましては、文化財保護審議会のほうでも、市指定文化財にすることを考えております。今後、柏原市としても、ぜひ取り組んでもらいたいですね。ところで、大和川も随分きれいな川になりつつあるようでして、日本一の汚い川から汚名返上ということになってきました。資料館としましても、昔の大和川にはこんな魚がいたのだというような展示というのはできないのでしょうか。

安村：無理なことはないと思いますが、たいへんだと思います。実は 300 周年をきっかけにしまして、大和川ネットワークという組織ができております。300 周年のときに、木下先生や私も、その基礎をつくるのに協力したのですが、そこには、釣をしている人や環境問題に取り組む市民団体、大学の先生、学校の先生、行政の人など、いろんな人が協

力して活動されていて、そのなかで、使えそうなヒントのようなものがあります。たとえば、最近天然のアユがたくさん発見されています。それから、大阪市立自然史博物館では、流域の生物調査を市民の協力で実施されています。それで、流域の魚・昆虫・植物などの実態がずいぶん分かっていますので、そういう資料を使わせていただければ、いろいろなことができるだろうなとは思いますが、それを使った展示をするとなると、とてもたいへんなことだと思います。

塚口会長：周辺の大和川流域の市とも連携しながら、来年・再来年ということではなく、長期的な展望にたって、大和川をさまざまな角度から展示することを検討していただければいいなと思います。それから、対外的には、たとえば「日本国家の誕生」というようなことに関連したシンポジウムを開催するなど、柏原市の記念事業の一環として、予算をあまりかけずに、そのようなシンポジウムなどを実施していただければありがたいと思います。

ほかに何かございませんでしょうか。ないようでしたら、これで終わりにしたいと思います。それでは、司会を事務局のほうへ、お返ししたいと思います。

酒谷館長：各委員の方々におかれましては、本日、たいへんお忙しいなか、運営協議会にご出席いただき、また貴重なご意見をいただき、本当にありがとうございました。柏原市の財政がたいへん厳しい状況ではございますが、本日いただきましたご意見等を検討し、資料館としてもできるものは実施していきたいと考えております。今後も、委員の方々にはご意見・要望等を資料館にいただきますことをお願いいたしまして、本日の運営協議会を終わりにしたいと思います。本日は、どうもありがとうございました。

(終了 4 時 45 分)